

# ふくろう新聞

＜発行＞  
 特別養護老人ホーム  
 淡路ふくろうの郷  
 広報委員  
 洲本市中川原町中川原 28 番地 1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

今月からふくろう新聞は「淡路聴覚障害者センター」と「おのこの家」のページが加わり全6ページになります。  
 今後、ふれあいセンターからも新聞が発行されます。荒浜委員長の下、発行準備を進めています。みなさまのご意見、ご要望などをお寄せください。ふれあいセンターと共に広報紙も作って行きたいと思えます。よろしくお願ひします。

## 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター開所

7月8日(日)、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター開所式が行われ、中川原町内の皆様をはじめ、来賓の皆様、淡路ふくろうの郷の入居者、島内外のろう協、手話サークルや県外からも二八〇人もの方々が、祝い、励ましに来てくださいました。

## 280人が集い、祝い、語りあう



▲本館玄関前広場に集まって下さったみなさんと乾杯(乾杯の音頭は荒浜さん)

当日は快晴に恵まれ、第一部式典は体育館で行いました。

今年度連合町内会会長の藤井一男様のあいさつに始まり、洲本市長、教育委員会、議会など来賓の皆様よりお祝いの言葉をいただきました。

次に、センター長、濱田より今日に至る経緯を報告、開設にお力添えをいただいた立命館大学の石倉康次教授から学生さんとの調査を通じての交流を、また「おたがいさま中川原」の試行事業に参加された後藤州永様より、地域の歴史を学びたいとの希望がよせられました。

そしてこれから始まる「おたがいさま中川原」の事務所に交替で常駐されるコーディネーターの紹介があり、地域の困りごとの依頼に対応していく決意を宣言してくださいました。

大矢施設長が「安心」づくりとあわせた活力づくりへのことばで閉会し、本館に移動して第二

部のはじまりです。

おたがいさま中川原の運営委員長荒浜様より乾杯の音頭のと、見学会は始まりました。

中でも青空会の野菜販売コーナーやゲーム機を使つての催しが好評でした。

ふれあいセンターを中川原町のみなさまに気軽に集まり、安心、元気への場になれるよう共に創つていきたいと思ひますので、お越しをお待ちしております。

(担当:神代)



コーディネーターが自己紹介をおなひました

## 恒例のBBQ大会

開所式の後には、場所をふくろうの郷へ移し、毎年恒例のバーベキュー大会が行われました。



地域交流室のソファの差し入れをいただきました

満面の笑み先山さん

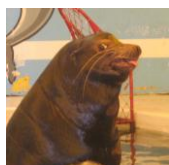
中川原高齢者・障害者  
 地域ふれあいセンター  
 利用時間 時間8時30分～5時30分

おたがいさま中川原  
 電話 0799(28)0990  
 ※ケーブル電話可

居宅介護支援事業所 桜ヶ丘  
 電話 0799(28)0991  
 FAX 0799(28)0992  
 お気軽にお立ち寄りください。



**【星海ユニット外出】  
ふれあいを感じた新屋島水族館と  
絶品！讃岐うどん**



6月13日(水)星海ユニットの入居者15名と香川県にある『新屋島水族館』に行ってきました。心配していた雨も上がり、透けるような梅雨の合間の青空の下、香川県での一日を楽しみました。

入居者さん達の嬉しそうな笑顔と「お〜可愛いく」と歓声も聞かれました。昼食は本場の『讃岐うどん』をいただきました。

『新屋島水族館』は、規模は小さいのですが、ふれあいを大切にしている水族館で、イルカやアシカの飼育も好評でした。量が思った

**ふくろう出前講座**

兵庫教育大学院で  
黒崎時安さん 竹邊正晴さん

五周年記念誌の発行をきっかけとして始まった出前講演。今回の依頼者は同大学の鳥越隆士教授。大学院で聴覚障害児心理学を研究されている学生さん50人が相手です。依頼の時間が朝の9時からとあって、ふくろうの郷出發は6時30分。介助と運転に竹原相談員と大矢施設長、手話通訳士の平松弘子さんも一緒でした。

黒崎さん・竹邊さんの人生とふくろうの郷の暮らしに心を傾けられた学生さんは、就職活動を2年間休職して障害児者心理を研究されている特別支援学校などの先生方と若い学生さんです。

より多かったです。完食した入居者さんも多く良かったです。楽しい時間を皆と一緒に過ごす事ができてリフレッシュして頂けたのではないかな、と思いました。

これから、入居者さんの希望にそった楽しみな計画を立てていきたいと思えます。

(生活支援：石川)

黒崎さんは「母が死に貧しくて勉強は小2まで。酒ばかり買って母も食べられずに死に追いやった父と同じ布団で寝るのが嫌。墓地で寝泊りし、わずかなお供えで飢えしのいだことなどを、竹邊さんも垂水の聾学校が空襲で全焼し小学校の記憶は5年生まで、50年近い精神病院隔離と保護室での手足拘束の体験を語られました。大矢施設長からは、義務教育未就学の入居者に、例えば兵庫教育大学付属ふくろう聾学校を教育権として要望することについて課題提起をしました。

佐賀県の先生からは、福岡や佐賀では過去に文部省が出した通達もあって「義務教育の就学機会が得られなかった障害者」への義務教育保障の取組みが母親たちの要望運動もあって実現した経験があるからと、未就学の入居者の義務教育保障についての取り組みを励ましてくださいました。

一時間目は机を並べて手話の音韻論・統語論などの勉強を見せていただいて、学生食堂を体験。ろうの院生岩林幸子さんや三田市の中学校の先生などとも歓談しました。

(施設長：大矢)

**京都手話劇グループ「箱」  
6・17ふくろう公演**



6月17日、京都市の手話劇グループ・手話舞台「箱」のメンバーが淡路ふくろうの郷で、ろうあ者2名を含む7名で「蝸牛」という民話を題材にした手話劇を披露してくださいました。

当日は、淡路のろうあ者、手話サークルの仲間も参加があり、約50人の観客が衣装や化粧、小道具なども本格的な劇に魅了され、しばし民話の世界に浸ることができました。幕間には「箱」が制作したろうあ者の生活を描いたドキュメンタリータッチの映画「紡ぐ」を鑑賞しました。

この「紡ぐ」や「箱」が制作した他の作品も収めたDVDをいただきましたので、鑑賞希望の方はふくろうの郷までご連絡ください。

(事務長：八木)

もつと手話で話が出来る施設を高知県に〜高知県学習会〜

平成24年6月17日に高知県で、学習会「高地にろうあ老人施設の建設を！コミュニケーション支援の充実を！！」が行われ、大矢施設長が講師に招かれました。

講演は、「一人ひとりを大切にともに生きる」というテーマで話し、淡路ふくろうの郷の6年間の歩み、入居者の人生からの学びを語りました。  
また、建設運動にあたり「3つのすべきこと」が提案されました。

① 孤立している支援の必要な高齢聴覚障害者を発掘する

② 施設で働く職員の確保

③ 建設資金確保のため、行政へ要請とあわせ、1億円の募金という内容です。

今回の施設建設への取り組みには、「社会福祉法人土佐平成

福祉会」が建設に名乗りを上げ、聴覚障害者に配慮した養護老人ホームと特別養護老人ホーム、各30床を計画しています。また、講演の中では、視覚障害者養護老人ホームに入所中の



▲高知県に聴覚障害者のための施設建設を

うめぼし作り



今年も6月18日と22日に、中川原市原青空会の平野さんたちのご協力により、梅干し作りに取り組みました。皆さん出来上がった梅干をイメージし、口の中をつばでいっぱいにして楽しんでいました。

「盲ろう者が参加され、「もつと手話でお話したい」と自らの言葉で語られました。

今後、法人と高知県聴覚障害者協会、手話サークルが共に活動し、建設を目指すことで、私たちも建設が実現するよう応援したいと思います。  
(相談員・竹原)

参加者最多記録更新!! 第60回全国ろうあ者大会 in 京都



6月9日と10日に、京都で開催された第60回全国ろうあ者大会に、ふくろうの郷から入所者10名が参加しました。

京都出身の土居文子さんは宿泊ホテルで弟さん、妹さんに久しぶりに再会し、姪御さん二人も交えて、嬉しそうに話に花を咲かせていました。

平成24年度 自治会役員決まる

6月17日、淡路ふくろうの郷に入居されておられる皆さんで今年度の自治会役員選挙が行われ、その結果、北風章子さんが会長に再選され、2年連続で会長を務めて頂くことになりました。



会長 北風章子さん



副会長 勝楽佐代子さん

大会会場の「みやこめっせ」は、全国各地から五千人を超える参加者であふれかえっていました。  
全国のろう者が一同に会するこの大会、「久しぶり！」という笑顔にあふれていました。  
(介護・角村)

今年には副会長になりました。月ユニット代表も兼ねています。がんばりますのでよろしくお願ひします。



会計 北川他久美さん

会計担当と花ユニット代表です。私がいちばん若いので自治会活動をかんばんります。

各ユニット代表

- 登鈴子さん 黒崎時安さん
- 竹邊正晴さん 谷妙子さん

# 淡路聴覚障害者センター 暮らしを守る拠点として

淡路聴覚障害者センターは、島内3市から委託を受け、聴覚障害者や家族、関係者の社会参加と平等の実現、福祉の拡充への事業を行っています。

平成7年の阪神淡路大震災後、淡路聴覚障害者協会や手話サークルの救援活動で、命に関わる問題も山積していることが次々と明かされました。

不便、不自由な生活を余儀なくされていたこと、手話通訳者の養成、設置、制度もなく「聴覚障害者が安心して生活するためには拠点施設が必要」と行政に要望を重ね、たび重なる会議を経て、島内の一市十町(当時)によつて設立されたものです。

センター設立後、相談や手話通訳、社会生活教室の開催等で聴覚障害者の生活状況が個別に把握され、「日常的に集える場所がほしい」「自分の力にあつた仕事が見たい」「ひとり暮らしができなくなってきた」等のニーズが育ちました。

それが、新しい社会資源の開拓、共同作業所や老人ホーム等の創造に結びついてきました。

当時、手話サークルの会員でもあつた私は「暮らしを守る拠点としてのセンターの果たす役割の大きさ」を感動をもって見てきました。これも一人ひとりが、生活上の困難を勇気をもって出し、励まし合うことが原動力となつていきます。

そして今、淡路は兵庫全体に実践を返すことで各地の拠点づくりに貢献してゆく役割が大きくなつていると痛感します。

私はセンターに赴任してほんの生活の一部を垣間見ただけですが、「コミュニケーション」、すなわち、「社会とつながっていくための人間の一番基本的で大事な面」で疎外され、自尊心の持ちように苦しみ、また、長く社会から排除されてきた聴覚障害者の抱えている問題の深さ、重さという課題が共有されるようにしていきたいです。

センターが「聴覚障害者が安心して暮らせるための拠り所」となるよう、常に「聴覚障害者の生活から学ぶ、共に考えていく」とを更にすすめていきたいです。

(センター長 辻 愛子)

## センターのご案内



聴覚障害者の生活を便利にするための福祉機器や防災グッズを展示しています。



手話や聴覚障害者関連の書物・DVD たくさん取り揃え貸出を行っています。是非ご利用ください。



プライバシーを守る相談室。月1回臨床心理士によるこころのケア相談も行っています。

## お知らせ

8月16日(木) 14:00~16:00

社会生活教室  
「メタボと食生活について」

…あなたの体大丈夫？

洲本健康福祉館(みなと元気館)

8月19日(日) 10:00~12:00

社会生活教室「読話教室」

聞こえにくさをフォローするために…

洲本総合福祉館(山手館)

9月1日(土) 10:00~14:00

ミニ交流会 in 淡路ハイウェイオアシス  
“暮らしや生活のことを気軽に話そう”

~お問い合わせはこちらまで~

淡路聴覚障害者センター

〒656-0027 兵庫県洲本市港 2-26

洲本市健康福祉館 3階

TEL:0799-24-3850 FAX:

## 平成24年度手話奉仕員養成講座



5月17日より、島内4か所で講習会が始まりました。

4か所で計 60 名の受講者が、3月までの1年間手話の技術や聴覚障害者問題について学びます。

受講者の声を紹介します。



洲本会場  
(昼の部)  
庄田瑞穂さん

病院のメディカルアシスタントをしています。聴覚障害者と接する機会があり、医師と患者を繋ぐ立場なのに、できていないもどかしさで受講を申し込みました。以前であれば接し方が分からなかったけれど、今は手話で会話したい！自分がいたことは身振り手振りを使って積極的に伝えてみようかと前向きな気持ちになりました。

もっと聴覚障害者の方たちと関わりを深めていきたいです。

# おのころの家だより



▲利用者が「猫の小物入れ」を作りました

おのころの家ではお客様に喜ばれ、働く仲間の生きがいと工賃アップにもつながる様々な商品を含んで一生懸命、製造しています。

先日、移動販売をきっかけに2つのご注文を受けました。一つは「エプロンとアームカバー」

ご希望通りの生地や仕立てで作成し、納品することができました。もう一つは「猫の小物入れ」17個の大量注文で、嬉しい反面、プレッシャーも感じましたが、みんなで作業分担し、こちらが無事納品できました。

ご注文有難うございました。今、みんなでホッと一息ついていきます。

# クッキー・玉ねぎ完売御礼!!

## 〜兵庫県ろうあ者大会〜

6月24日(日)、第三十回兵庫県ろうあ者大会が小野市民会館にて行われました。

早朝7時に車2台で淡路島を出発。淡路協の皆さんと一緒に小野市に向かいました。

私達はバザーを行うため、淡路島の玉ねぎ、おのころ屋のクッキー、手作り作業品等を持参。

クッキーは即完売。玉葱も皆さんのご厚意で完売。有難うございました。

今回の兵庫県ろうあ者大会は、兵庫県聴覚障害者協会が「社団法人」から「公益社団法人」へ移行後、初めての特別な大会でした。



▲菓子や手作り品等のバザーをしました

記念講演の講師は韓国ろうあ運動の先駆者、ジョン・スニールさん。韓国聾啞人協会の会長さんです。講演はバザーの合間に少し見ただけなのですが、ジョン氏の手話はとてもダイナミックで力強いものでした。手話が怒っていました。

「ろうあ者に対する社会の理不尽な差別に私は屈しない！運動を続けるんだ！」という熱い思いがはつきりと会場全体に伝わって勇気をもらいました。乗り越えることが難しい数々の問題も、私たち一人ひとりがジョン氏のようなリーダーとなって、結束すれば、理想を現実に変えていけるのだろうか...と思いました。

韓国のろうあ者に対する配慮は、日本に比べても進んでいます。それはろうあ運動が成し遂げたことです。これはろうあ運動に限ったことではありません。行動しなければ何も変わりません。

来年度の開催は、神戸市文化ホールです。是非またバザーをしたいと思えます。

そして、二巻を発信したいです。

# レモン味にトマト味のパン 〜おのころ屋 夏に向けて〜

暑くなってきましたが、皆様お変わりございませんか？おのころ屋の作業場はパンやお菓子を焼き始めるエアコンも効果なしの状態です。

しかし、スタッフ一同、それぞれの持ち場で、おいしいお菓子とパンを作るべく、黙々と頑張っています。



おのころの家で昼食に出しました

## おのころの家

〒656-0025  
洲本市本町3丁目1-10  
清水マンション1F  
TEL&FAX 0799-26-0956



〒656-0025  
洲本市本町7丁目3-41

営業日時: 月～金 9:00～18:00  
販売先: TEL&FAX 0799-22-6133



▲無添加クッキーの注文発送、承ります。

# 続・地域を語る

## 第43回 盆踊り

今、現世に生きている私達、それは私達の両親(父母)、その両親は、それ以前の両親、そして先祖へとつながっている。

お盆は、8月13日の夕刻、迎え火を焚いてご先祖様をお迎えし、翌14〜16日の3日間、ご先祖様をおまつりし、再び16日の夕刻、送り火を焚いてご先祖様を黄泉の国へお送りする行事であり、盆踊りは、ご先祖様を供養し、報恩の誠を捧げる一つの行事として伝承されているが、一時は衰退したようであったが、最近では各地域で復活されていると見られる。

農村では、お盆を安息日とされ里帰りなどで生家に行き休息して帰る風習であった。  
お盆三が日、娯楽の少ない農村には、村の老若男女を問わず太鼓を叩いて夜の明けるまで踊り抜いたという。  
盆踊りは主に社寺などに集って境内などで行われていた。境内では踊櫓(やぐら)を中心に、また舞台をこしらえたりして、その周囲を回るようにして踊る輪踊り、また踊り流してゆく流し踊り(阿

波踊り)がみられる。

櫓には音頭出し(唄い手)三味線、太鼓が一組となって音頭を出し(疲れてくると交替する)踊り子、踊り手達は手振り足振りをして離れ、疲れてくると輪から離れ、新手が輪に加わりして夜のふけるまで踊り、盆踊りという娯楽によって疲労と苦痛を忘れ、鋭気を回復したと伝えられる。また、裏方では、この日に備えてお酒、煮物などご馳走を鉢に盛り上げ、来られた方に振る舞われた。

地域内の各寺院では、施餓鬼供養など行われており、盆踊りの日がかち合わないように日時を調整して(23日の地藏盆が含まれる)月末まで行われ、音頭出しや三味、太鼓、踊り手達もこの日を楽しみに地区内を踊り回ったという。

※地方史の新研究より編作する。次回は「盆踊り唄」について掲載予定

また踊り流してゆく流し踊り(阿



### 遊び水おいでよ!

#### ふくろう喫茶&カクテルバーのおしらせ

本格カクテルを味わえます

#### □ふくろうカクテルバー

日時:7月19日(木)

13:30~15:00

1盃300円より。  
ノンアルコールのカクテルもあります。

#### □ふくろう喫茶

日時:8月19日(日)13:30~15:00

コーヒー・紅茶・ココア・カルピスなど  
1杯200円より  
入居者さんと一緒に、楽しい時間を過ごしましょう!



バーテンダー役の栗栖さん



みなさまのおこしをお待ちしております



営業日時:月曜日~金曜日 10:00~18:00  
(菓子の日:月~金&パンの日:火~金)  
販売先:〒656-0025 洲本市本町7丁目3-41  
TEL&FAX 0799-22-6133

## ふれあい玉入れ〜中川原小学校運動会〜



▲児童と一緒に玉入れに参加!!

6月10日(日)に中川原町挙げての運動会が行われ、今年もまた入居者の方々も参加させていただきました。

また、地域交流会の皆様につきましては、ご多忙の中テントの準備から片付け、交通安全の見守りまでしていただき誠にありがとうございました。

(介護:梶田)

かけこで一生懸命走っている児童の姿を見て「頑張れ!」と声援しておられました。「可愛らしいね」との声もありました。

また、「ふれあい玉入れ」では、児童たちと一緒に楽しく玉入れをしました。普段は見られないく姿がとても印象的でした。

また、地域交流会の皆様につきましては、ご多忙の中テントの準備から片付け、交通安全の見守りまでしていただき誠にありがとうございました。

## ふくろう学習会のおしらせ

テーマ:

「ろう者の親として、子育てから見える社会」

※資料代500円

日時:7月28日(土)15時30分~17時

場所:淡路ふくろうの郷 地域交流スペース

講師:岩林恵子さん

(ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 評議員)

お問い合わせはこちらまで

TEL:0799(25)8550 FAX:0799(25)8551

担当:中村、竹内